住友ファーマ

難病 パーキンソン病の有効性



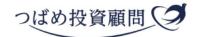
住友ファーマ、京大病院による医師主導治験結果でパーキンソン病のiPS細胞由来細胞療法を承認申請へ

2025.04.18 菊池結貴子、木村ちえみ

京都大学医学部付属病院は2025年4月17日、2018年に開始したパーキンソン病に対する他家iPS細胞由来ドパミン神経前駆細胞移植の医師主導治験において、一定の安全性と有効性を示唆するデータを得たと発表した。論文が同日、Nature誌に掲載された。この他家iPS細胞由来ドパミン神経前駆細胞については住友ファーマが実用化を目指しており(開発番号:CT1-DAP001/DSP-1083)、2025年度内に承認申請するという。



販売までもう少し?



参考資料(研究開発)

■再生・細胞医薬事業 上市・開発品目一覧 (2025年1月31日現在)

2024年10月以降の変更部分は赤字で示しています

販売名/細胞種 開発コード	適応疾患	JP/ US	Pre-clinical	臨床研究	Phase 1/2	Phase 3	承認申請	承認→販売
リサイミック	先天性無胸腺症	us						•
ドバミン神経前駆細胞 (他家iPS細胞由来) CT1-DAP001/ DSP-1083	バーキンソン病	JP US			o1 o4 o5			上市目標 検討中
網膜色素上皮細胞 (他家iPS細胞由来) HLCR011	網膜色素上皮裂孔	JP			6 5			
網膜シート(立体組織) (他家iPS細胞由来) DSP-3077	網膜色素変性	JP US		© ²	5			
神経前駆細胞 (他家iPS細胞由来)	脊髓損傷	JP US		3				
ネフロン前駆細胞 (立体臓器) (自家/他家iPS細胞由来)	腎不全	JP/ US	•					

1. 京都大学医学部附属病院 2. 神戸アイセンター病院 3. 慶應義塾大学病院 4.カリフォルニア大学サンディエゴ校

5.企業治験

© Sumbonio Pharma Co., Ltd. All Rights Reserved. 32

フェーズ2→3 約32%

フェーズ3→承認申請 55%

承認申請→承認 85%



2025年度中に 国に承認を目指す

承認申請から 1~2年で承認へ

ラツーダの独占販売期間が終了した

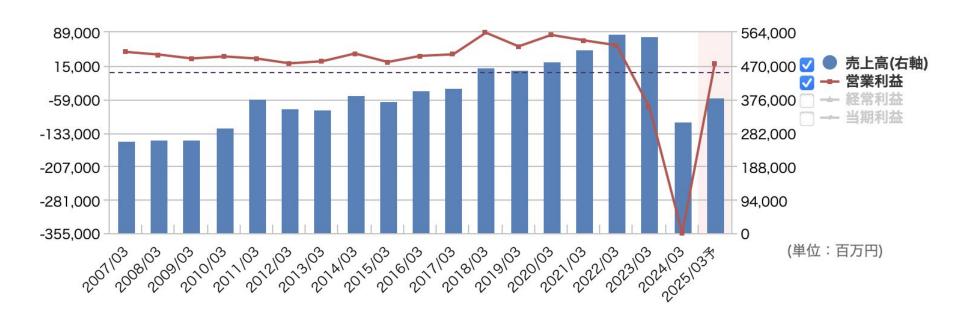


通期業績推移

X

業績 前期比 指数 利益率 変動要因

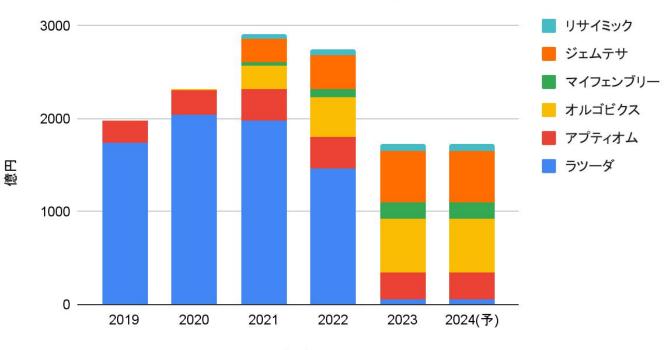
全期間 😊 詳細:



ラツーダの影響が大きい

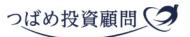


住友ファーマ アメリカ 主要製品販売動向



年度

住友ファーマの成長領域 3つ



03

基本方針 02

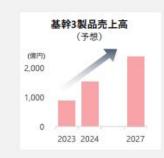
構造改革の継続的な実施による強靭化

住友ファーマ





今後の成長・財務改善



基幹3製品

オルゴビクス (進行性前立腺がん)

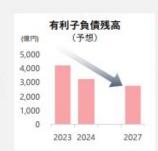
唯一の経口剤としてADT*市場内シェアを拡大 *アンドロゲン除去療法

・前立腺肥大を伴う

適応症拡大により拡販を図る

マイフェンブリー (子宮筋腫・子宮内膜症)

子宮内膜症でのシェアを拡大



有利子負債削減

- ロイバント株式売却等により、 借入金は大幅削減
- 基幹3製品の伸長等に伴う 営業キャッシュフローも活用し、 財務体質の改善を図る

低分子医薬品(創薬)事業の位置付け

- ✓ 低分子医薬の創薬分野でのシナジーは限定的
- ✓ 役員派遣等により、同社再建を強力に支援
- ✓ 同時に、同社の持続的成長に貢献できるベストパートナーを検討



再生·細胞医薬事業



Sumitomo Pharma

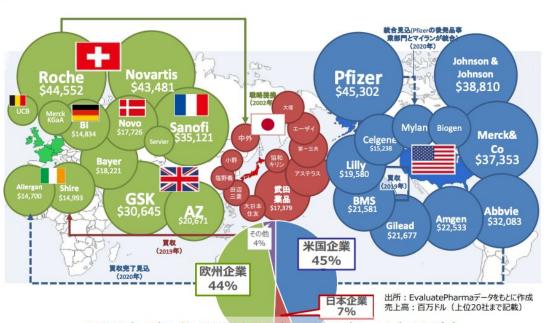
- ✓ 住友ファーマの再生細胞のフロント ランナーとしての技術・知見
- ✓ 当社の工業化技術・分析技術・ 品質管理のノウハウ

住友化学グループを挙げ、 開発・事業拡大を推進

基本的には競合は非常に多い



グローバル規模でみた製薬企業



医薬品売上高上位30社の本社所在国別売上高シェア(2018年)

出典:医薬品開発協議会日本製薬工業協会提出資料(令和2年10月27日)

